

戦後復興期の屋外彫刻設置に関する研究 ～アーバンデザインとしての屋外彫刻の 歴史的展開に関する研究Ⅱ～

山本 陽¹・篠原 修²

¹正会員 工修 (株) オリエンタルコンサルタンツ (〒151-0071 東京都渋谷区本町3-12-1,
E-mail:yamamoto-yu@oriconsul.com)

²正会員 工博 政策研究大学院大学 (〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1,
E-mail:shinohara@grips.ac.jp)

屋外彫刻を活用した良好な公共空間を形成するためには、アーバンデザインとしての配慮が必要である。本研究は、我が国で西洋の技法を用いて公共空間に屋外彫刻が設置された明治以降の時代のうち、戦後復興期を対象として、屋外彫刻の内容や設置目的、設置場所との意味的つながり、設置方法などアーバンデザインの観点から分析を行い、同時代の特徴について考察を行った。その結果、戦前には見られなかった人物一般や抽象的な表現の屋外彫刻が登場したことや、同時代特有のものとして、建築や広場、街路と一体となり都市の骨格となる空間を形成する設置が行われていたことなどを明らかにした。

キーワード:屋外彫刻, アーバンデザイン, 戦後復興期

1. はじめに

(1) 研究の背景

現在我が国の公共空間には、数多くの屋外彫刻が設置されており、公共空間の構成要素の一つとなっている。

これら公共空間に設置される屋外彫刻は、近年パブリックアートなどとも呼ばれる場合もあるが、美術館など特定の目的を持った人々のみが訪れる場所とは異なり、人々が否応なく目にする場所に設置されるため、その内容が公共空間にふさわしいものであることが求められる。

そして、公共空間へ設置する上では、彫刻単体としての妥当性だけではなく、アーバンデザインとして、取り巻く空間全体に対する位置づけ(意味や配置の妥当性)や、周辺を含めた景観形成に対する配慮も必要である。

しかし、これまで公共空間に設置された屋外彫刻のい

くつかは、彫刻単体としての表現の内容や設置場所などの観点から「彫刻公害」といった言葉で批判されるものもあり、必ずしもアーバンデザインとしての配慮がなされているわけではない。

このような状況を踏まえ、今後、屋外彫刻を活用したより良い公共空間の形成を図っていくためには、これまでに設置された屋外彫刻がどのような目的や意図で設置され、また、アーバンデザインとしてどのような配慮がなされていたかを振り返り、屋外彫刻の設置の在り方を考察することが望まれる。

筆者らは、我が国の公共空間に西洋美術の影響を受けた屋外彫刻が設置された明治時代以降、現代に至るまでの屋外彫刻の内容や目的、場所との意味的つながり、設置にまつわる体制等の観点から、アーバンデザインとしての屋外彫刻の歴史的展開を研究してきた(表-1)。

表-1 屋外彫刻設置の変遷(筆者の既往研究¹⁾から引用)

| 時代 | 内容 | 目的 | 場所との意味的つながり |
|--|----------------|------------------------|------------------|
| 明治～戦前 | 特定の人物の像(銅像) | 故人の顕彰, 国家主義の鼓舞 等 | 像主の経歴やまつわる出来事に関連 |
| (戦前の金属回収と、GHQ占領下での政府等による軍国主義等の排除(撤去等)により皇族以外の屋外彫刻(銅像)の多くが失われる) | | | |
| 戦後～1960年 | 人物一般の像, 抽象的な彫刻 | 平和や自由, 復興の象徴, 都市の美化 等 | 戦災を受けた場所 等 |
| 1960年代 | 抽象的な彫刻(素材多様化) | アーツ, 文化振興 等 | 無いものが多い |
| 1970年代 | | 人中心の都市空間形成, 都市内のギャラー化等 | 場所を踏まえ作品制作 |
| 1980年代 | | 都市外のギャラー化 等 | 自然環境の利用 |
| 1990年代 | アニメキャラクター | 都市再開発での個性付加 等 | 地元出身の作家 |
| 2000年代 | | 都市再整備の中心 等 | 作品制作に地域の人々が関与 |

前報²⁾において、戦前に設置された屋外彫刻（銅像）は、彫刻の内容や設置場所が相応しいかが行政により判断され、その結果として、当時の価値判断として公共空間に相応しい彫刻が設置され、場所との意味的つながりが確保されることが多かったこと、配置に関しては、敷地外や敷地内建築物等周辺環境に対して配慮がなされていたことを示し、アーバンデザインの観点を考慮した公共空間への屋外彫刻設置が行われていたことを明らかにした。

本研究では、戦前に公共空間に設置されていた屋外彫刻（銅像）の多くが金属回収やGHQ占領下の政府等による軍国主義や超国家主義の排除（撤去・移設）により失われた戦後から、公共空間への屋外彫刻の設置が全国的に広がるきっかけとなった自治体による彫刻設置事業が開始されるより前の、1960年以前の時代（以降、戦後復興期）に着目する。

(2) 研究の目的

本研究では、戦後復興期に公共空間に設置された彫刻について、その内容や設置目的、場所との意味的つながり、設置方法(場所、位置等)を分析し、考察を行うことを目的とする。

(3) 用語の定義

本研究における公共空間とは、広場や公園、街路といった誰もが自由に往来できる場所のことをいう。ただし、公有地だけではなく、民有地であっても、誰もが自由に往来できる場所は公共空間ととらえる。一方、誰もが自由に往来できる場所であっても、大学等教育・研究施設や民間企業敷地内等、主にその場所に所属した集団のみが往来する場所については、公共空間には含まない。

本研究における屋外彫刻とは、屋外の公共空間に恒久的に設置することを目的として設置された彫刻のことをいう。

また、誰もが自由に立ち入ることができない場所に設置された屋外彫刻であっても、敷地外から自由に眺めることが可能なことが確認できたものは、公共空間に設置された屋外彫刻としてとらえる。

(4) 調査方法

本研究では、彫刻単体に関する内容や設置目的といった情報に加え、公共空間に設置された屋外彫刻をアーバンデザインの観点から分析するため、屋外彫刻設置に関する規制や体制、屋外彫刻と設置場所との意味的つながり、周辺環境との関係性についても調査を行った。個別の分析対象に関する調査項目を表-2に示す。

調査にあたっては、文献等から各項目の内容を抽出

すると共に、設置当事や現在の写真や、現地確認により設置位置や向きを特定した。

表-2 調査項目

| 調査項目 | 調査結果の例 |
|-----------------|--------------------------------|
| ① 屋外彫刻の内容 | 形態. 設置年 等 |
| ② 作者 | 作者名 |
| ③ 設置の目的 | 平和を祈念, 被災者の慰霊 等 |
| ④ 設置場所 | 街路, 広場, 公園, 水辺 等 |
| ⑤ 設置場所との意味的つながり | 被災地, 物語の舞台 等 |
| ⑥ 設置方法 | 配置: 街路と軸線を形成 等 向き: 建築側を向く 等 |

(5) 既往研究及び本研究の位置づけ

本研究に関連する先行研究は以下がある。

- ①戦前から現代に至るまで公共空間に設置された屋外彫刻の歴史的展開を、彫刻の内容や配置、体制などのアーバンデザインの観点から考察し、各時代に見られる特徴を考察したもの(筆者¹⁾)
- ②戦前、東京府内の公共空間に設置された屋外彫刻（銅像）について、アーバンデザインの観点から分析したもの(筆者ら²⁾)
- ③戦後から1950年代を対象に全国で設置された屋外彫刻の内容について考察したもの（竹田³⁾)

本研究では、①の分析方法及び、時代区分を踏襲し、②の分析対象とした時代区分（戦前）後の時代を対象とする。

③は、本研究と同様の時代に設置された屋外彫刻を対象としているものの、主に屋外彫刻単体の内容や表現、その社会的背景などの考察にとどまっており、本研究で扱う配置方法やその時代的特徴を含めた屋外彫刻の特性については、十分な考察がなされていない点で異なる。

ただし、本研究で対象とする屋外彫刻は、③で扱われている屋外彫刻を再度調査し、その一部を研究対象として用いている。

2. 屋外彫刻設置の動向と分析対象

(1) GHQ占領下の政府による戦前の銅像の撤去・移設

戦前は、当時の規制等に基づき屋外彫刻の内容や設置場所が相応しいかを行政が判断した上で、故人の顕彰や軍国主義の鼓舞を目的とした特定の人物を題材とした像（銅像）が、公共空間に設置されていたが、戦時中の金属回収により、皇族のものなどを除く多くが失われた。

そして、戦後のGHQ占領下の政府により、軍国主義又は超国家主義思想の宣伝鼓舞を目的とした屋外彫刻等の

新規建設の禁止及び、同様の目的で設置された既存の屋外彫刻等の撤去が指示され、東京都の旧万世橋駅前を設置されていた広瀬・杉野像(図-1)等、戦前の金属回収を免れたものの一部が撤去・移設された。



図-1 戦前万世橋駅前広場に設置されていた広瀬・杉野像
広瀬中佐が軍神として称えられるきっかけとなった日露戦争のエピソードが2体の銅像で表現され、当時繁華街であった万世橋駅前広場に設置されていた。
(写真出展：国立国会図書館ウェブサイト
URL <http://www.ndl.go.jp/scenery/index.html>)

(2) 戦後から1960年頃までの屋外彫刻の設置

戦後復興期は、軍国主義等を宣伝鼓舞するものでなければ、屋外彫刻の設置に関する規制は無かった。

また、1960年代以降の自治体による彫刻設置事業のように自治体毎に彫刻や作者、設置場所などを決定するための手続きや体制が定められていなかったため、行政による一定の基準に基づく、公共空間に相応しいかの確認は行われていなかった時代といえる。

そして、そのような状況の中、戦前には見られなかった人物一般や動物を題材にしたものや、抽象的な表現のものなどが設置された。

(3) 分析対象

戦後から1960年までに設置された屋外彫刻の全てを把握可能な資料はなく、現在ではそれらの多くが撤去や移設され、現地に存在しない場合が多いことから、本研究では、竹田(前掲³⁾)の調査により得られた60事例のうち、現在も設置当初の場所に存在するもの、もしくは、現在は設置当初の場所に存在しないが文献等から設置当時の配置等が把握できるもの43事例及び、調査の過程で得られた事例を追加し(2事例)、45事例を分析対象とした。抽出した分析対象を表-3に示す。

3. 屋外彫刻の分析

(1) 屋外彫刻の内容

屋外彫刻の内容は、具象的な表現の人物一般(男性や女性、子供)の像及び、それら人物の像などを組み合

わせた群像が多くみられた(図-2)。

また、抽象的な表現の人物像(図-3)や塔、複数の場所への同一の彫刻の設置(No. 27, 32)などが見られた。

戦前は、規制等に基づき、特定の人物を題材とした像が、その人物の所属した組織や関係した場所に設置されることが多かった。

そのため、特定の人物を題材としない、人物一般の像はほとんど見られず、表現する内容が読み取りにくい抽象的な表現も見られなかった。また、戦前では、同一の人物を題材にした像であっても、設置場所に応じて屋外彫刻の表現の妥当性が考慮されていたため、同一の彫刻が別の場所に設置されることが無く、人物一般や抽象的な表現の屋外彫刻は戦後復興期の特徴といえる。

その他には、地域の名産(図-4)や伝統行事を表現したものや、橋梁の高欄としての機能を有するもの(No. 10)が見られ、戦前と比較し、屋外彫刻の題材や対象が多様化したといえる。



図-2 人物一般の群像の例【NO. 19 宇部産業祈念像】
枝が若葉を出した植物になったスコップを持っている男女の像[設置場所：宇部市 真締川公園]



図-3 抽象的な表現の人物像の例【NO. 29 春風にうたう】[設置場所：札幌市 南9条緑地]



図-4 地域の名産を表現した彫刻【NO. 30 神戸肉の但馬牛】
地域の名産である但馬牛の像 [設置場所：神戸市 須磨海浜公園]

表-3 分析対象一覧

| | 名称 | 形態 | 設置年 | 作者 | 設置場所 | 現況※ | 備考 |
|----|------------|----------|-------|---------|--------------|--------|--------------------|
| 1 | 平和の塔 | 抽象 | 1949年 | 中野四郎 | 駅前広場(浦和駅) | 再建・移設B | |
| 2 | 自由 | 裸婦像 | 1950年 | 乗松巖 | 公園(日比谷公園) | 現存 | 朝鮮戦争 勃発 |
| 3 | 平和の像 | 裸婦の群像 | 1950年 | 菊池一雄 | 公園(三宅坂公園) | 現存 | |
| 4 | 平和の女神 | 裸婦像 | 1950年 | 日高正法 | 街路(大丸心斎橋前) | 移設 | |
| 5 | 平和像 | 男性像 | 1951年 | 広井吉之助 | 駅前広場(長岡駅) | 移設 | |
| 6 | 建設と平和 | 男女の裸像 | 1952年 | 分部順治 | 駅前広場(前橋駅) | 移設A | サンフランシスコ平 和条約発効 |
| 7 | 原爆死没者慰霊碑 | 慰霊碑 | 1952年 | 丹下健三 | 公園(平和記念公園) | 現存 | |
| 8 | 豊穡 | 女性の群像 | 1953年 | 中川為延 | 公園(日比谷公園) | 現存 | |
| 9 | 復興平和記念碑 | 女性・子供の群像 | 1953年 | 樽谷清太郎 | 街路(八幡市民会館前) | 現存 | |
| 10 | 平和大橋・西平和大橋 | 親柱・高欄 | 1954年 | イサムノグチ | 公園(平和記念公園) | 現存 | |
| 11 | みどりの塔 | 裸婦像 | 1954年 | 新谷英夫 | 公園(須磨浦公園) | 再建 | |
| 12 | 平和の像 | 男性の裸像・群像 | 1954年 | 野田惟恵 | 公園(沖縄戦跡国定公園) | 現存 | |
| 13 | 平和像 | 裸婦像 | 1954年 | 岡本錦朋 | 緑道(西川緑道) | 現存 | |
| 14 | 平和祈念像 | 男性の裸像 | 1955年 | 西村西望 | 公園(長崎市平和公園) | 現存 | 神武景気 (~1957年) |
| 15 | 自由の群像 | 裸婦の群像 | 1955年 | 菊池一雄 | 公園(千鳥ヶ淵公園) | 現存 | |
| 16 | 愛 | 男性像 | 1955年 | 横江嘉純 | 駅前広場(東京駅) | 撤去中 | |
| 17 | 平和の鳩 | 鳩の像 | 1955年 | 山本常一 | 建築脇(文化科学館脇) | 現存 | |
| 18 | 牧童 | 子供・鹿の群像 | 1956年 | 峯孝 | 公園(札幌市大通公園) | 現存 | 国連加盟 |
| 19 | 宇宙産業祈念像 | 男女の群像 | 1956年 | 山内壮夫 | 公園(真締川公園) | 現存 | |
| 20 | 平和の群像 | 女性・子供の群像 | 1956年 | 矢野秀徳 | 港(小豆島土庄港) | 現存 | |
| 21 | みどりのリズム | 女性の群像 | 1956年 | 清水多嘉示 | 公園(岡山市後楽園前) | 現存 | |
| 22 | 希望の像 | 男性の裸像 | 1956年 | 岡本錦朋 | 街路(岡山市役所前) | 現存 | |
| 23 | 鉄都誕生記念碑 | 男女の裸像・群像 | 1957年 | 樽谷清太郎 | 公園(高炉台公園) | 失 | |
| 24 | 堀川町原爆慰霊碑 | 抽象 | 1957年 | 坂手護 | 街路(広島市新天地) | 現存 | |
| 25 | 翼の像 | 裸婦像 | 1958年 | 朝倉文夫 | 駅構内(上野駅) | 現存 | |
| 26 | 青年像 | 男性の裸像 | 1958年 | 野々村一男 | 駅前広場(名古屋駅) | 移設B | |
| 27 | 新聞少年 | 少年像 | 1958年 | 朝倉響子 | 公園(有栖川宮記念公園) | 現存 | |
| 28 | 希望 | 女性と鳩の群像 | 1958年 | 山内壮夫 | 街路(札幌市民会館前) | 現存 | |
| 29 | 春風にうたう | 抽象 | 1958年 | 山内壮夫 | 緑地(南9条緑地) | 現存 | |
| 30 | 神戸肉の但馬牛 | 牛の像 | 1958年 | 広部兵三 | 公園(須磨海浜公園) | 現存 | |
| 31 | 原爆の子の像 | 女性の像 | 1958年 | 菊池一雄 | 公園(平和記念公園) | 現存 | |
| 32 | 新聞少年 | 少年像 | 1958年 | 朝倉響子 | 緑道(西川緑道) | 現存 | |
| 33 | 森の歌 | 抽象 | 1959年 | 山内壮夫 | 公園(札幌市中島公園) | 再建・移設A | |
| 34 | 殉難学徒の像 | 女性像 | 1959年 | 不明 | 公園(半田市雁宿公園) | 現存 | |
| 35 | 祇園太鼓 | 男性の群像 | 1959年 | 米治一 | 駅前広場(小倉駅) | 移設A | |
| 36 | 平和記念像 | 女性像 | 1959年 | 翁朝盛 | 公園(仙台市勾当台公園) | 現存 | |
| 37 | 泉の像 | 女性の裸像・群像 | 1959年 | 本郷新 | 公園(札幌市大通公園) | 現存 | |
| 38 | 笛を吹く少女 | 女性像 | 1959年 | 山内壮夫 | 公園(札幌市中島公園) | 移設A | |
| 39 | 母と子の像 | 女性・子供の群像 | 1959年 | 山内壮夫 | 公園(札幌市中島公園) | 移設A | |
| 40 | 瞳孔 | 抽象 | 1959年 | 新谷英夫 | 寺社(神戸市長田神社) | 現存 | |
| 41 | 牧歌 | 男女の裸像・群像 | 1960年 | 本郷新 | 駅前広場(札幌駅) | 移設A | 新安保条約 締結 |
| 42 | 花の塔 | 抽象 | 1960年 | 新谷英夫 | 街路(神戸市下山手街園) | 現存 | |
| 43 | 水の守護神 | 女性像 | 1960年 | トナル・ホード | 公園(横浜市山下公園) | 現存 | |
| 44 | 嵐の中の母子像 | 女性・子供の群像 | 1960年 | 本郷新 | 公園(平和記念公園) | 現存 | |
| 45 | 祈りの像 | 男女子供の群像 | 1960年 | 横江嘉純 | 公園(平和記念公園) | 現存 | |

※移設A:敷地内への移設, 移設B:敷地外への移設

(2) 作者

作者のうち、最も事例数が多いのが山内壮夫の6事例であり、次いで菊池一雄、本郷新、新谷英夫が3事例で多い。山内壮夫や菊池一雄、本郷新は、戦前から政治的仕事を否定し、純粋芸術を目指す新制作協会に所属し、戦前の軍国主義を鼓舞するような軍人を題材とした彫刻(銅像)とは異なる彫刻を目指した作者達であり、戦後復興期以降の自治体による彫刻設置事業等においても引き続き作品が設置されている作者である。

また、分析対象とした45事例のうち、戦前に屋外彫刻(銅像)を製作していたことが確認できた作者は、朝倉

文夫だけであり、戦前の作者と大きく異なっている。

また、山内壮夫の作品のうち5事例は、自身が出身の北海道に設置された屋外彫刻であり、本郷新や新谷英夫の作品も自身の出身の地域に設置されているものが多く、その他の事例の作者も設置場所周辺の出身の作者の場合が多い。

(3) 設置目的

設置目的は、「平和」や「復興」の記念(祈念)や「慰霊」など抽象的な概念のものが多く見られた。

また、戦争を題材とした小説(二十四の瞳)の映画

化を記念し、平和を象徴する屋外彫刻を設置したもの（NO.20）や、商工会議所等団体や企業の周年記念（NO.3, 15, 30）や設置場所の整備記念（NO.28, 29）に屋外彫刻を設置するものが見られた。

地域の出来事や、団体や企業の記念といった限られた範囲の人々にのみ関係した内容を記念することを目的として公共空間に屋外彫刻が設置されたのは、規制等が行われていた戦前とは異なる点といえる。

(4) 設置場所

設置場所は、「公園・緑道・緑地」が最も多く、28事例で全45事例の半数以上を占め、次いで駅前広場（7事例）や街路（6事例）が多い。

公園に設置された彫刻のうち、7事例は戦災や慰霊を記念した公園（沖縄戦跡国定公園、広島市平和記念公園、長崎市平和公園）に設置されていると共に、屋外彫刻が設置された駅前広場や街路のうち4事例は、戦災復興都市計画が実施された箇所（前橋市、長岡市、名古屋市、八幡市）であった。

また、戦前の金属回収や戦後の撤去により失われた銅像等の台座をその場で利用して異なる屋外彫刻を設置した事例があった（図-5）。



図-5 戦前に寺内正毅像が設置されていた台座に設置されている【平和の像（NO.3）】（3体の裸婦像による群像）[設置場所：千代田区 三宅坂公園]

(5) 屋外彫刻と設置場所の意味的つながり

彫刻と設置場所の意味的つながりは、戦争被害を受けた場所に平和や復興、慰霊を記念（祈念）することを目的とした屋外彫刻を設置する事例が多く見られた。

戦前の場合は、屋外彫刻の題材となった特定の人物が設置場所の組織を代表する故人であるなど、屋外彫刻の内容（特定の人物）と設置場所が直接的なつながりを有していたのに対し、戦後復興期では、設置目的と設置場所がつながりを有していることが多く、それら屋外彫刻の内容が人物一般の像であることから、平和や復興、慰霊の記念（祈念）といった設置目的を読み取ることは難しく、結果として屋外彫刻と設置場所の意味的つながりは分かりにくいものになっている。

また、地域の名産や伝統行事を表現した屋外彫刻で

は、内容と設置場所が意味的つながりを有しているものの、必ずしもその場所である必要は無い広がりをもった地域とのつながりであり、戦前と比較した場合、意味的つながりは薄いといえる。

抽象的な表現の屋外彫刻の場合は、さらに意味的つながりが薄い（もしくは無い）といえる。

(6) 設置方法

設置方法は、特徴的なものが2種類あった（表-4）。

前者は、駅前広場や駅前広場に接続する街路に設置されたもので、該当する6事例のうち、4事例が戦災復興都市計画の実施箇所であり、建築（駅舎）や広場、街路といった社会基盤整備と一体となり軸線を形成し、都市の骨格となる空間を形成している。このうち、駅前広場内に設置された屋外彫刻の向きは、駅舎側を向くもの、街路側を向くもの、2体の彫刻により両方を向くものの3パターンが見られた。

戦前には、軍施設や官施設の建築と屋外彫刻により軸線を形成しているもの（図-9）や、屋外彫刻の内容（特定の人物）の向きにより、距離の離れた場所との関係性を有しているもの（図-10）が見られたが、上記のような都市の骨格を形成する規模のものは見られず、戦後復興期における特徴的な設置方法であるといえる。また、戦後復興期より後の時代と比べても同様の規模のものは見られない。

後者は、平和祈念像（NO.14）のように、公園等敷地全体のデザインを中心となる位置に、ランドマークやアイストップとなる規模の屋外彫刻を設置したものであり、戦後復興期以降、現代まで見られる設置方法である。

その他の事例では、公園内の散策路脇に設置したものの等、周辺環境との配置的關係が薄いものが多かった。

4. 全体のまとめ

戦後復興期には、行政等による規制等が無い状況下で、抽象的な目的や、限られた人々にのみ関係した出来事の記念を目的としたものなど、戦前には見られない多様な目的により屋外彫刻が設置された。

しかし、その屋外彫刻の内容は、人物一般や抽象的な内容の場合が多く、結果として、設置目的や設置場所との意味的つながりが読み取りにくいものが多かった。

設置方法は、周辺環境と一体に都市の骨格となる空間が形成されている戦後復興期特有のものが見られた一方、敷地内外との配置的關係が薄いものも多く見られた。以上がアーバンデザインの観点から分析した、戦後復興期の公共空間における屋外彫刻設置の特徴である。

本稿では扱っていないが、戦後復興期後の1960年代以降は、全国の自治体による彫刻設置事業が盛んになり、戦後復興期に登場した、設置場所との意味的つながりが読み取りにくい（もしくは無い）屋外彫刻が、表現や素材を多様化しながら都市内外に設置され、その一部は「彫刻公害」といった批判を受けることとなった。

今後、屋外彫刻を活用したより良い公共空間を形成して行く上では、後の時代に引き継がれず失われてしまった戦前や戦後復興期にアーバンデザインとしての配慮がなされていたものの知見を活かしつつ、取り組んでいくことが望ましい。

参考文献

- 1) 山本陽：アーバンデザインとしてのパブリックアートの歴史的展開に関する研究，政策研究大学院大学 開発政策プログラム 修士論文，2010
- 2) 山本陽，篠原修：アーバンデザインとしての屋外彫刻の歴史的展開に関する研究～戦前の東京府内公共空間に設置された屋外彫刻をケーススタディとして～，土木史研究講演集，No. 30，pp. 235-242，2010
- 3) 竹田直樹：日本における1950年代の彫刻設置事業，ランドスケープ研究，No. 64(5)，pp. 461-464，2001

表-4 戦後復興期の特徴的な設置方法




| 設置方法 | 模式図 | 代表的な事例の写真 | 該当する事例 |
|--------------------------------|-----|---|---|
| 駅舎と駅前広場、街路と一体となって都市空間を形成しているもの | |  図-6 復興平和記念像（女性と子供の群像） （写真提供：八幡市民会館）  図-7 平和像（男性の像） （写真出典：長岡市制100周年eライブラリ） | NO. 5平和像（長岡駅） NO. 6建設と平和（前橋駅） NO. 9復興平和記念像（八幡市民会館前ロータリー） NO. 16愛（東京駅） NO. 26青年像（名古屋駅） NO. 41牧歌（札幌駅） （6事例） |
| 公園等敷地デザインとなっているもの | |  図-8 平和祈念像（男性の像） （写真出典：長崎市HP） | NO. 14平和祈念像（長崎市平和公園） NO. 23鉄都誕生記念碑（高炉台公園） （2事例） |



図-9 戦前陸軍参謀本部に設置されていた有栖川宮熾仁親王像（軍施設と軸線を形成）
 （写真出展：国立国会図書館ウェブサイト URL <http://www.ndl.go.jp/scenery/index.html>）

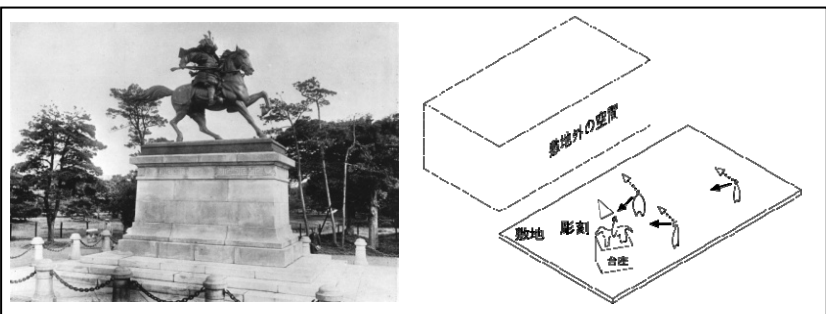


図-10 皇居前広場に設置されている楠正成像（近接する皇居の方向に正面（顔）を向けている）
 （写真出展：国立国会図書館ウェブサイト URL <http://www.ndl.go.jp/scenery/index.html>）